



地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)

常勤医による婦人科診療開始のお知らせ

産婦人科（婦人科担当部長） 高田 眞一



平成 30 年 9 月から産婦人科の婦人科担当部長として高田眞一（たかだ しんいち）が、10 月から婦人科担当医長として仲尾岳大（なかお たけひろ）が赴任しました。これまでは、産科部門は井上部長のご尽力で外来・入院・分娩診療が行われていましたが、婦人科部門は非常勤医による外来診療のみで、手術が必要な場合は近隣の大規模病院への紹介を余儀なくされてきました。

10 月からは、婦人科担当の常勤医による外来診療が毎日あり、手術などを含む入院も可能になりました（表 1）。

二人とも、産婦人科専門医とがん治療認定医の資格を持ち、さらに高田は婦人科腫瘍専門医を、仲尾は細胞診専門医の資格を有し、婦人科手術を多数経験しています。

ところで、当センターは、あきる野市、日の出町、桧原村の子宮がん検診指定医療機関であるため、一次検診のほか、二次検診（精密検査）ではコルポスコピー検査を行ってきました。今後は、一次検診では液状細胞診（LBC）を活用することで、より正確で患者負担の少ない検査診断が可能になります。さらに、組織診などの精密検査依頼を積極的に受けるため外来診療枠の拡張を予定しています。

婦人科担当部長の高田は、これまで 4 つの大学病院で 30 数年間、医局長、病棟医長（産科・婦人科）、外来医長、診療科長（婦人科・産科）を務め、前任地では 15 年間に執刀・指導を行った手術は、開腹手術 2815 例、腔式手術 645 例、悪性手術 1005 例を数えます。

当センターでも、婦人科手術（表 2）を主に行いますが、前任地同様に表 3 の項目に留意して手術します。新しい器具を導入するとか、先進医療手術を行うとか、臨床試験や治験を行うということではありません。目標は、安全で確実な婦人科手術を実行し、社会復帰が早期にできることにあります。

ただし、残念ながら、医師数からの制約があり、緊急手術や進行浸潤癌の手術、内視鏡手術は行えない現状をご理解ください。

近年、日本国内では「少子・高齢化」が社会問題となっています。産婦人科では、「少子」は分娩施設の激減という側面も併せ持ちますし、「高齢化」では介護問題、税負担などのほかに、介護を必要とする高齢婦人の増加が指摘されています。

さらに、高齢婦人の疾患に対応できる施設が地域レベルで少ないのが現状です。当院婦人科外来では、意識ある高齢女性なら、車イスやストレッチャーでの搬送であっても、受診可能です。ぜひ地域医療連携センターにご相談ください。

（裏面に続く➡）

また、2020年には女性の半数が50歳超であるため、産婦人科外来受診の半数以上が閉経女性になると推定されます。つまり、「閉経後女性の健康管理」も外来診療の主軸の一つになります。わが産婦人科外来では「閉経後女性の健康管理」と「高齢女性診察」への対策も構築されつつあります。今後、地域の皆様のご要望にお応えすべく努力してゆきたいと思っております。

表1 婦人科手術一覧

開腹手術	子宮筋腫(筋腫摘出術、子宮全摘術) 卵巣腫瘍(卵巣嚢腫摘出術、付属器摘出術)
腔式手術	子宮頸部高度異形成・上皮内癌(レーザー円錐切除術) 骨盤性器脱(子宮脱根治術、腔閉鎖術) バルトリン腺腫瘍(膿瘍切除術、開窓術) 外陰尖圭コンジローマ(レーザー蒸散・焼灼術) 外陰血腫(血腫除去術+ドレナージ)
できない手術	進行した婦人科癌(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌) 緊急を要する異所性妊娠(子宮外妊娠) 腹腔鏡手術、子宮鏡手術

*子宮脱根治術. 腔式子宮全摘術+膀胱底形成術+肛門挙筋縫縮術

表2 婦人科手術を行うにあたっての留意点

#1	できるだけ腹壁の切開創は横切開、
#2	術後早期に歩行開始、
#3	腹壁の切開創は真皮縫合なので抜糸はない、
#4	術後4~7日で退院、
#5	出血量を少なくする工夫をしている、
#6	自己血貯血・輸血も行う場合がある
#7	円錐切除術は2泊3日、ホルミウム・ヤグレーザーを用いる